

広報かわにし

発行所 川西町役場
 発行人 中村壮吉
 編集人 金子幸作
 印刷所 白南風社

人口の動き	
(3月1日現在)	
男	7,398人
女	7,588人
計	14,986人
世帯数	2,765世帯



春のいぶき

そっとのそいた雪割草

かみしめるふきのとうの

舌にしみいるふくよかな味覚は

この里の春の使い

澄みきった青い空

ふりそそぐ日の光

やわらかな春風に

小川の流れの高まるひびき

もえいする若草、木々の芽

待ち望んだ大地のぬくみに

無心に遊ぶ子らのえがおは

ああ 川西の春のシンボル

ああ 川西の春のシンボル

(写真：日なたの子供たち
権にて 榎木秀治撮影)

町づくり

役員の選出が容易でない、とか引き受ける人がいないといわれながらも、それぞれの地域ではあらかたの役員改選が終った。

古いものから新しいものへと切り替わられてゆくときだけにどこでも共通した悩みがあつたらしいが、とくに部落や町内の婦人会にとつてはことしも役員選出の苦勞が大きかつたようである。

新しい抱負ですすもうとされる婦人会役員のみなさんに、そして役員が決まつたあとのホツとした会員のみなさんに、この一編をもつて激励のことばとすることができれば幸いである。

▲「引き受けてください」「イヤとでもだめです」というやりとりが「役員になり手がない」という声に変わつて、動きがとれなくなつたとか、ゆきつまりにきた婦人会だとかいわれて、毎年の役員選出に苦勞しなければならぬとしたらその原因はいつたいどこにあるのだろうか。

▲「アナタはまじめでほんとによくやつてくれる」といつた人が、カゲにまわると「あの人はヒマ人だからああやつていけばいいのよ」「ぐらいいいわれたのでは、だれでもオイソレと引き受けられるものではない」「ワタシなんかとても……」といつて断つても、「アナタひとりには苦勞はさせない」ということでどうにか引き受けてもらつたり、なり手がないうまにいわおろ方しの選挙や順審制、はてはオガミ倒してみつけたらしたところもあるという。

▲こうしてできた役員が「みなさんこれこれのことを……」といつて立ち上がるうとして、「役員は容易でないことだ」といいたがら何でも任せつきの会員、それでいて批判だけはするのだから、なかに意欲的な人があつたとしてもけつきよく伝統やしきたりにこだわつて、昔からの形でひつぱつてゆくようになってしまつていふ。少しでも新しいことをやるうとしても、みんなから白い目で見られる場合が多いのである。

▲事なかれ主義でやれば会員はそつぽを向くし、出歩けば家を明けることが多くなつて、それが度重なればいくら理解のあるダンナさんでもタマにはふくれツラをすることもある。したがつて二年の任期を一年でやめる、また役員の選出に苦勞するという結果にもなりかねない。社会教育団体として、だれからも拘束されずにするでいいはずの婦人会が、こんなことで自らの主体性を失つてしまつたようなことはないだろうか。

▲婦人会はハシゴタンを降りてからが本会議だといふことがあつても、それがどうかを求めてはいて、だれもが何かを求めているに、それとどうするといふ具体的なことになると、とかく発言をたのめらつたり積極性をかいたりする人がまだ多い。役員としては全くたいへんのことだろが、いづれも会員の身になつて、表面のキレイさよりもウラの声によく耳をかたむけて運営していただきたい。

▲もうひとつ、世のダンナさん方にもお願いしたいことがある。あなたの奥さんは、いま婦人会のことで悩んでいるかも知れない。「あなた……どうやつたらいいのかしら……」という奥さんの、よき相談相手であつてほしいのである。「たいへんだらうが、しつかりやるんだよ……」という励ましのひとことがどんなにか力強い味方となつて、そこからよりよい婦人会が生まれてくることにもなつてくると思う。

▲戦後十四年の社会教育が、小団学習や話し合い活動へと移行するにもなつて、婦人会もまた物質のあつせんやレクリエーションから大きく前進したといえる。このころの婦人会の動きに目を注いでみるがいい。家族会議やグループ学習から生活の課題につながる問題をとらえ、みんなの力で解決してゆくことによつて地域の進展に貢献しようとする動きは、現実の問題ととりくむ考える婦人会に変つてきたことの証左である。

▲婦人会のみなさん、わたくしたちは毎日同じような暮しの中で同じいことを悩み、同じいことにしあわせを求めているのに、自分ひとりの力では解決できないことが多い。アナタとワタシのなかがみんなのなかがいとなり、それらを中心としてほんとうの活動が生まれてこそ婦人会は前進するだらう。どうかこの共通したみんなのなかがいを、婦人会という強い組織の力で明かす町づくりを注いでいただきたい。これからの町づくりにアナタ方の果す役割は大きいのである。

▲もうひとつ、世のダンナさん方にもお願いしたいことがある。あなたの奥さんは、いま婦人会のことで悩んでいるかも知れない。「あなた……どうやつたらいいのかしら……」という奥さんの、よき相談相手であつてほしいのである。「たいへんだらうが、しつかりやるんだよ……」という励ましのひとことがどんなにか力強い味方となつて、そこからよりよい婦人会が生まれてくることにもなつてくると思う。

▲戦後十四年の社会教育が、小団学習や話し合い活動へと移行するにもなつて、婦人会もまた物質のあつせんやレクリエーションから大きく前進したといえる。このころの婦人会の動きに目を注いでみるがいい。家族会議やグループ学習から生活の課題につながる問題をとらえ、みんなの力で解決してゆくことによつて地域の進展に貢献しようとする動きは、現実の問題ととりくむ考える婦人会に変つてきたことの証左である。

▲婦人会のみなさん、わたくしたちは毎日同じような暮しの中で同じいことを悩み、同じいことにしあわせを求めているのに、自分ひとりの力では解決できないことが多い。アナタとワタシのなかがみんなのなかがいとなり、それらを中心としてほんとうの活動が生まれてこそ婦人会は前進するだらう。どうかこの共通したみんなのなかがいを、婦人会という強い組織の力で明かす町づくりを注いでいただきたい。これからの町づくりにアナタ方の果す役割は大きいのである。

▲もうひとつ、世のダンナさん方にもお願いしたいことがある。あなたの奥さんは、いま婦人会のことで悩んでいるかも知れない。「あなた……どうやつたらいいのかしら……」という奥さんの、よき相談相手であつてほしいのである。「たいへんだらうが、しつかりやるんだよ……」という励ましのひとことがどんなにか力強い味方となつて、そこからよりよい婦人会が生まれてくることにもなつてくると思う。

町議会報告

収支の調整に苦慮

新年度予算審議始まる

町議会は、目下予算編成期を迎えて連日協議会、委員会を開いて新年度予算と取り組んでいる。本年度も、学校建築(高倉)診療所の改築(橋)をはじめ、懸案の信濃川架橋、災害復旧等々甚多の問題が予定されているので、財政支出は相当ふくらむものと見込まれているが、一方財源については軽便軌道の撤去に伴う交付金納付金の大幅削減、国鉄大規模消却資産の消却による自然減、準拠税率に基づく町民税の漸減等により昨年度より約五百五十万の減収となるので、新年度の財政収支をどのように調整するかは大きな悩みのたねとなっている。このため、場合によっては一部増税も考慮しなければならないのではないかと、慎重に検討中である。

学校統合推進を決議

本年度は研究期間

昭和三十四年度第一回臨時会は一月十九日に招集されたが、この臨時会では専決処分報告二件のほかは、請願六件が付議されただけで、時期的にも新年度の方針を打ち出すには至らなかつた。

しかし、千手中学校増築請願と上野中学校ピアノ購入請願をめぐって、学校統合問題が取り上げられ、熱心な論議が交わされた意義は大きい。

学校統合は町村合併の最終最大の眼目とされているだけに、いずれの合併町村も、いつかは必ず直面しなければならない問題である。しかし、学校問題はとむずかしいものではないことは、他町村の例を見るまでもなく、新制中学校発足当時の苦い経験が想起すれば十分である。まして、統廃合というところになれば新制中学校問題とは比較

学校ピアノ購入請願であるが、千手中学校も上野中学校も年々生徒数級数が増加しており、現在七学級三〇五名の千手中は昭和三十七年度には九学級四〇六名となり、同じく上野中学校は三学級一四二名から六学級二〇〇名に増加するので、現在でさえ特別教室の不足に悩む両校が、数年のうちに職員さええなくなる(上野中)といった状態である。

更に上野中学校では、今まで小学校と共用していたピアノを、昨年度小学校舎を新築したために、事実上共用が不可能となつたので、新たに購入して欲しいというものであるが、これらはいずれも両校を統合することによって積極的に解決するか、現状のまま両校をそれぞれ整備するかという岐路に立たされているわけである。

この問題について議会としては本年十二月末を期限として、町長教育委員、議員、関係PTA代表、校長等を委員とする学校統合同研究機関を設けて、この問題を検討する、という総文委員会の報告を一応了承したが、なおこの問題は千手、上野両中学校だけに限定せず、川西町の全体について総合的の計画を立てる必要があるというところに意見が一致し、その線に添って努力することを申し合わせた。

行詰りを統合で打開
千手、上野中の場合
統合問題をとり上げるきっかけとなつた請願は、「千手中学校特別教室増築請願」並びに「上野中

田小学校田戸分校の統合問題が検討されたが、その結果に基づいて二月三日に地元仙田の議員代表並びに田中総文委員長、教委、議会事務局の係が現地田戸部へ出張して、統合問題について第一回懇談を行なつた。

二月六日 全員協議会

①新年度予算の減収対策として固定資産税の増徴の方針を確認し
②議員報酬の改正は見合わせる
③町職員の増加を押えて給与の改善を図り、課制をして繁閑を調整する、等を検討した。

いま「火事の季節」

ことしこそ無火災の町に

「春は火事から」などというおしかりを受けるかも知れませんがそれはともかく雪が消えてポカポカと暖かくなつてきますと、あちこちで又カ焼きの煙が立ち上つて見えます。忙しいながらもどかな風景です。さてここまでは普通なのですが、これらの取り込み

に注意しなければなりません。川西町火災予防条例第九条の二によりまず「火気使用後二十四時間を経過しない取り灰などは、必ず不燃性の容器に入れて風で飛ばさないようにすること」となつて

二十四時間以内に後や木箱に入れた場合は条例に違反することになります。その上火災にでもなれば失火罪となつて家を焼き、罰金を納めなければならないという、まことにおもしろくない結果になつ

これからの農村振興は

こうして

これからの農村振興事業には、三つの重大な課題があります。第一の課題は、この町のように水田単作の経営を行なっている農民は、いちど失敗するとすぐあきらめてしまふという傾向があつてどうして失敗したのか、なぜなのかを深く考えようとしないうことと、これは畑作地帯の人た

てしまいます。もちろんカ焼きばかりではなくて、すべての火災を予防することが町の条例によつて規定されています。例年ならばもう数件の火災が発生している時期なのですが、ことしは嬉しいことにまだ一件も発生していません。うららかな小春日より、厚くいえば火災日よりもいわれます。あまり良いことはありませんが消防人の間ではよく使われることとです。それだけにまたこの季節には火災が多く発生して、一年のうちでも最高を示しているのです。特殊の場合を除いてこの季節を突破すれば、火災の大半は防げるといつても過言ではないでしょう。ことしはせしめ無火災の町にしたいものです。

ちには比べると、大きな性格のちがいであるといえましよう。また適地適作の新しい作物を導入するときなど特定の人がだけが指導に動きやすく、農民全体のまとまりに欠けているようです。第二の課題は、経済の動揺に劣弱であることです。とくに米の単作による地方維持の困難なことが労働、土地、資本による生産の低さと、経済の動きによるショックを経営全体に影響させるもろさのあることです。第三の課題は、生産様式の固定化や封鎖化による家庭内の主従関係が、新しい経営組織とのアンバランスを呈していることです。これがために失敗を多く見うける現状ですから、婦人の生産関係の技術の介入など、多少でも自主性の回復をはかる必要があります。また封鎖的な生産関係から福祉的な面を軽視するきらいがあつたり保健栄養や育児などがせいたく視されて、過度の強制労働をともなつている現状も、何とか打開してゆかなければならない問題であるといえましよう。けつきよくこれら三つの課題を解決するための、基本的な対策として、一、各農家が弾力性のある経済力を強化して、土地の整備や経営様式の再編成をすること。二、観念的、形式的な農家生活を改めて、記録による科学的、計画的な生活様式を確立すること。三、婦人の解放と生産活動の強化を促進すること。などをしげんに考えてゆかなければなりません。(農業委員会)

(川西町消防団)

知事県議選近づくと

今から強い批判力を

ことしは選挙の年だといわれていますが、この町では七月上旬に予定されている干手土地改良区の総代選挙をのぞくと、町長選挙も議会議員の選挙もありません。

しかし知事や県議会議員の選挙が四月二十三日に、参議院議員選挙が六月上旬に、それぞれ予定されていることを忘れてください。

県知事や県議会議員はこの先四年間県政を担当し、参議院議員はこれから六年という長い間、国政を担当することになります。

よく見て よく聞いて よく考えて

あなたの信頼できる人に悔のない一票を投ぜられるように、今から十分の心構えをもってください。選挙は投票によつて行なわれませんが、投票するには選挙人名簿にのつていなければなりません。

このため町選挙管理委員会では毎年の九月十五日現在で基本名簿(定時名簿)を作りますし、このほか選挙のたびに補充名簿(随時名簿)を作ることになっています。この二つの名簿は、いずれも一定の期間に縦覧して確定するので、縦覧期間には名前が確定しているかどうかをよく確かめてください。

明かるく正しい選挙をするために、いま全国的な公明選挙運動が展開されていますが、その一つとして、話し合い活動、がすすめてきました。

して、話し合い活動、がすすめてきました。みんなで話し合つて世の中を明るくし、政治に対する認識を高めて住みよい町や県にするには、国は自ら栄えることにはならず、このたび当局から、選挙目あての事前運動は厳重に取り締まるといふ達しがありました。

みんなできれいな選挙をして、よい政治が行なわれるように努めましょう。(選挙管理委員会)

日赤社員に 赤十字の話 加入しよう

近く赤十字社員増強運動が展開されます。いわゆる全戸の社員加入を理想として、すべての人たちが赤十字事業を理解し、戸ごとにひとり日赤社員に加入して、事業資金となる「社費」を納めていただく運動なのです。

この運動によつて、赤十字は国内外にわたつて博愛、救護、厚生、奉仕、社会福祉などの、数々の人道的な仕事をこなすことができるのであります。

赤十字の「社費」はこのようにして世界を結ぶ組織をおし、お互の住んでいるこの世の中を少しでもよいものにし、苦しんでいる人、悩んでいる人を助けようといろいろな事業に使われています。

一軒の家の災害にも、同胞の外からの引揚げにも、いろいろと赤十字活動を見たり聞いたりしてあります。つまりよいこと、それは「赤十字を通じて人類の幸福と世界平和の積極的な手である」という信念のもとに行われる事業の資本になるのです。

赤十字は、人道として苦痛と死の排除に専任します。人間が人間らしく取り扱われることを要求します。平等として各人に対し差別なく救護を与えます。赤十字がなし得る援助は、その人の必要と緊急の度合に応じてなされます。そして赤十字は軍事、政治、宗教、哲学などの分野において中立を守ります。すべての権力に対し独立し、すべての勢力に自由であり、赤十字の事業はすべての人に及ぼさねばならぬと常に心がけております。

このようにして人道的任務の實踐のために、お互いが浄財や労力技術を出しあうようになれば、社会はほのぼのと明かくなり、人と人との近親感が生まれて、苦しむものはあたたかい愛情に物心両面からあふりたつてくるでしょう。赤十字社員となるには普通社員で年額百円以上十年間納めていただくことになっています。

なおほか特別社員として一時に三千円以上(年三百円ずつ十年でもよい)納めてもらうものと一時金三万円以上(年千円ずつ十年分)のものがあります。どうぞこの主旨を御賛同の上、戸ごとにひとり日赤社員に加入して下さるよう、お願いいたします。(社会係)

ここを讀まないとそのう 銃砲刀剣をさがそう

「オレもひとつ宝探しをしてみよう」と思われる方は、この記事を最後までごらんください。あなたのお宅に銃砲や刀がありませんでしょうか、昔から伝つてきた銃砲や刀の中には、美術品として価値のある火なわ銃式火器や、文化財に指定されるような名刀、名剣のあることがしばしばあります。ひとつお家の中の宝探しをしてみてくださいませんか。

今この町でわかっているものだけでも、備前長船船定、をはじめ四十振り以上の名刀があります。「オラ家になんか思つていても、神棚の上とか土蔵の中を探すとでてるものがあるのです。ところで「銃砲刀剣類所持取締令」というむずかしい規則によりますと、「銃砲、空気銃、刀、槍、なぎなた、短刀、あいくち、飛出ナイフなどの銃砲刀剣類は、公安委員会の許可または文化財保護委員会の登録がなければ所持できないことになっています。ちようどいま(三月一日から三十一日まで)「潜在銃砲刀剣類発見届出推進月間」でもあります。そして新潟県警察本部では、まだ許可や登録を受けていない人の届出を勧奨しています。

銃砲刀剣類を持つているが「まだ届出をしていない」という方やこれらから発見した人は、お近くの駐在所か派出所に届出、警察から「届出済証」の交付を受けてください。(川西部長派出所長・教育委員会)

土地家屋の異動 申告はこうして

土地や家屋に異動(売買とか相続など)による所有権の移動をのぞく(のあつた場合は、すみやかに

一、第一種地(免税の土地)が第一種地(課税対象となる土地)となつたとき及び家屋を建築したときは一月以内。(家屋の建築着手届とは別に行う)

二、土地の分筆合筆及び家を建築

広狭階層別自小作農家別経営耕地面積および農家数

階層別	農家総数	耕地総面積	自作農家		自小作農家		小自作農家		小作農家	
			農家数	面積	農家数	面積	農家数	面積	農家数	面積
総数	2,114	15,507.2	1,524	11,578.6	480	3,888.4	92	4,940	17	50.2
3反未満	177	885.5	128	2,77.9	80	677	12	264	7	18.5
3反~5反	383	1,551.7	260	1,053.1	84	3,417	29	1,202	10	36.7
5反~1町	1,112	8,103.3	773	5,710.7	291	2,076.0	48	8,166		
1町~1.5町	395	4,674.1	322	3,832.8	70	8,105	8	808		
1.5町~2町	36	597.5	32	532.6	4	649				
2町~3町	9	194.1	8	171.5	1	226				
例外規定の農家	2	1.0	1	1.0						

(注) この表は田、畑の合計面積を階層別に区分し、農家数と耕地面積を自作別に表示したものです。「自作農家」は自作地が全体の9割以上、「自小作農家」は自作地が1割~5割、「小作農家」は自作地が1割に満たないものとなっています。

又は取りこわしたとき。
三、第一種地の地目交換をしたときは一ヶ月以内。
四、家屋の所在、種類、構造の変更又は一部を取りこわしたとき
五、土地及び家屋の登録名義人の住所又は氏名及び名称などに変更があつたとき。(所有権移転のときは申告でなく登記をする)
六、そのほか台帳の登録事項に変更のあつたとき。
申告は所有者が法務局(登記所)に対して行うことになっています。詳細は登記所か役場にお尋ねください。『税務(地籍)係』

川西町役場事務分掌表

昭和三十四年三月十五日現在

国保衛生係 (八名)

係長 ●平沢徳松

- ①係内事務統制 ②国保、直診の条例、予算、決算 ③国保運営協議会、④物品管理、発註、支払、
- ⑤国保の国庫負担金、補助金 ⑥保健施設事業 ⑦衛生予算水道

- ①保険給付の通知 ②傷病統計
- ③保健衛生思想の普及

- ①火葬場の管理 ②予防接種法
- ③精神衛生法 ④結核予防法

- ①伝染病予防法 ②伝染病発生時

- の処理 ③環境衛生 ④狂犬病予防法 ⑤食品衛生法 ⑥興行場法

- ①国保月報、統計調査報告 ②保険給付の審査 ③診療報酬の処理算定 ④療養費の支給

- ①保険料 ②一部負担金 ③診療報酬の支払

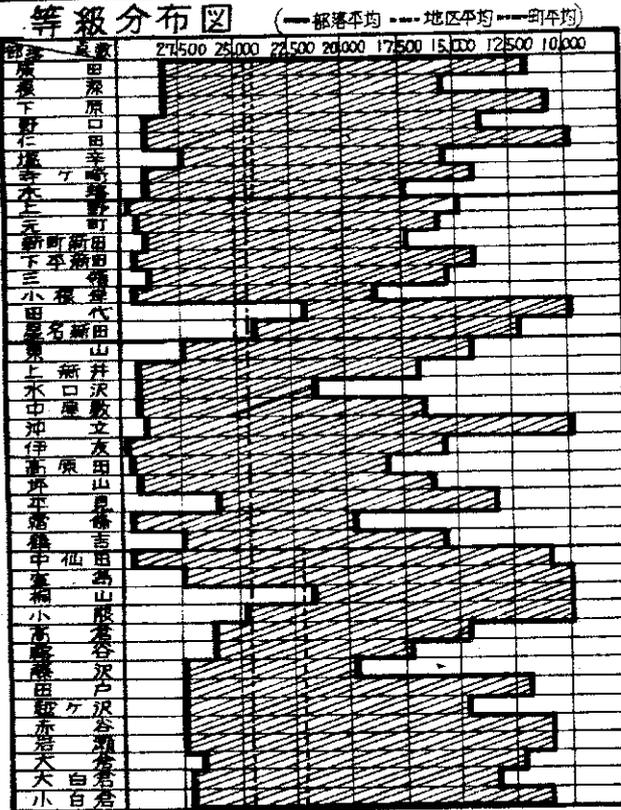
- ①被保険者台帳 ②給付原簿
- ③任意給付 ④被保険者の異動

【完】

最高(一級地)は伊友

農地基本調査まとめ

みなさんの御協力によって農地基本調査(本年度計画分)の実態がまとまりました。



所得税や市町村民税の課税標準算出の基礎としてさつそく使用されますが、一級から四十級までに区分し、一筆ごとに格付けいたしました。いすれ各農家あてに等級別面積を通知いたしますが、上表は部落別に等級の分布状況を示したものです。部落平均や地区平均、町の平均を点や線で示してありますからよくご覧ください。(税務係)

仙田支所 (七名)

支所長 ●押木仲治

- ①支所の統轄 ②庁舎の取締
- ③公印、帳簿の保管
- ④出納・庶務 ●斎喜政良
- ⑤現金の受領、保管、支払 ⑥文書の收受、発送 ⑦物品の購入、保管、処分 ⑧庁舎の管理
- ⑨会議 ⑩消防 ⑪遺族会

- 大溪紀
- ①母子手帳の交付 ②衛生月報
- ③衛生統計報告 ④関係法規の編さんと保管
- 保健婦 ●岩田トク
- 保健婦業務の全般

(農林) ●小川政一

- ①新農山漁村建設計画の樹立推進
- ②たばこ耕作組合 ③農林、農委
- ④社会、選挙、衛生、統計の連絡
- (戸籍) ●南雲文八
- ①戸籍簿、除籍簿の保管 ②各種届書の受付 ③戸籍の改製 ④戸籍、住民登録 ⑤埋火葬許可証の交付 ⑥死亡、失所による相続開始の通知(税務署あて) ⑦印鑑事務 ⑧国保、社会の連絡
- (配給) ●小川京
- ①配給割当 ②転入転出 ③各種の証明 ④贈本、抄本の交付
- ⑦人口動態 ⑧みどり会
- 保健婦 ●高橋アサ
- 保健婦業務の全般
- (使丁) ●樋口ミイ
- ①庁舎の清掃 ②各種の連絡

橋支所 (五名)

支所長 ●山田喜雄

- ①支所の統轄 ②庶務 ③消防
- ④選挙 ⑤団体の庶務
- 野沢新一
- ①出納 ②税務 ③国保の一部
- ④各種団体の会計
- 山田亀吉
- ①勸業、土木 ②みどり会
- 保健婦 ●平沢ユリ子
- 保健婦業務の全般
- 高橋サキ
- ①通信物の配布 ②庁舎の清掃
- ③各種の連絡 ④その他

上野支所 (五名)

支所長 ●内山忠雄

- ①支所の統轄 ②庶務 ③土木
- ④消防 ⑤防犯モデル地区関係

●星名四郎

- ①農業センターの管理、運営
- ②農林、農委に関する事務
- 上村カウ
- ①社会と厚生 ②戸籍、住民登録

受診証が、被保険者証に

通用は県内ならどこでも

このしの一月一日から国保法が全面的に改正され、国民皆保険が実現の運びとなりました。

次にいまままでと変わった点を掲げますから、よく読んでまちがいのないようにしてください。

①受診証は以後「被保険者証」という。

②療養担当者(協定医)は、国民健康保険医(又は医療取扱機関)という。

③被保険者となれない人としての一月一日から町の国保(職場保険)の被扶養者になつた人(新規の二五加入はできない)。

④被保険者の住所の認定「一定の意志と定住の事実の両面から生活の本拠を確定し」住民登録、米穀通帳、選挙人名簿などを資料として認定を行う。

⑤学生は親とが住所学生は親の住所地の被保険者になり、家族とは別の被保険者証が交付される(特例)

⑥被保険者証は新潟県内一円に使用される。

●保健婦 ●富井ヒサ

- ①保健婦業務の全般 ②国保事務
- 白井キヨ
- ①庁舎の清掃 ②各種の連絡

⑦県内での療養費払いは取り扱わない。いまままで他都市や県外で療養費の全額を支払い、あとで役場から半額の療養費を支給された制度も、今後県内の場合には取り扱わない。旅行中の急患で応急手当一回ぐらゐの診療を限度としたときは例外として、そのほかは必ず被保険者証を提示し、窓口で二分の一の一部負担金を納めなければならない。

⑧被保険者の調査をします！被保険者台帳の再整備と、新しい「被保険者証」の切り替えのために被保険者の調査をします。この調査は係が部落ごとに参上して、各世帯の現在の受診証と台帳の照合をすることになっていきます。調査の日時や場所などはあつてお知らせしますが、当日は世帯員の現住、不在、加入除外などのよくわかる人から、受診証と認印を持参していただきます。(国保衛生係)

「新表記法への放言」 ③ 「現代かなづかい」について

丸山精二郎

・ 繁雑な旧かなづかい

「太郎は外へ出て空を見た」と助詞だけが特別に「わ、え、お」と発音されるほか、現代かなづかいではだいたい一字一音であり、一音は一字で表わされる。大きづかにいえば発音どおりに書くというところである。このことがどんなに便利であるかということは、そらでなかつた当時のかなづかいと比較してみるとよくわかる。(以下便宜上「新かなづかい」「旧かなづかい」と略称する)

・ 問題の助詞は、え、を

しかし、新かなづかいになつてすべての不合理が解消したわけではない。慣習に引きずられて旧かなづかいと不徹底な妥協をした点や、改革によつて逆に矛盾や不台理を生じた例もある。

従来の慣習と妥協した典型的の例は、最初に述べた助詞「は、わ、え、お」と改めることは、国民感情の点から無理があつたこと

たとえば、新かなづかいではすべて「きよう」と書けばよいところを、旧かなづかいでは、狂(きやう)・教(けう)・協(けう)と書き分けなければならなかつたし、同じく「チヨウ」と発音する語でも長(ちやう)・用(てう)・蝶(てふ)と書かなければ誤りであるとされてきた。同様に「ユウ」には郵(いう)・邑(いふ)・夕(ゆふ)の区別があり、また、悔(くゐ)であるが杭(くゐ)と書き、声(こゑ)で肥(こゑ)と書き、織(お)で居(お)と書き、(である)といつたぐあいで、一事が万事、すべてこの調子であつたのだから、よくもこんなやむを得ない表記法を後生大事に守つてきたものだ、いまさらの感に耐えない。それでも活用語尾のように「てい」の法則に基づくものはまだよい

いことは、すでに識者間の定説である。
次に、同じように「オオ」と発音する語でありながら、狼、公はそれぞれ(おおかみ)(おおおけ)と書き、桜花、扇は(おうちか)(おうち)と書く。なぜこうなるかという点、旧かなづかいでは、前者は(おほかみ)(おほおけ)であつたので「オ」と発音されるのは、おと書くという原則によつて「おお」となり、後者は(あうくわ)(あうき)で、オの長音と考えられるので「オ」の長音はおと書くというところから「おおう」となつたのである。しかし正確にこのような区別をするには旧かなづかいを知らなければできないという不合理がある。

・ 才列長音の矛盾

これは、才列の長音「う」でなく「お」をつけて書くことにすれば解決する。ア、イ、ウ、エ列については、それぞのかなに「あ、い、う、え」をつけて長音を表わすのに、才列だけ「う」をつけることにしたのはやはり従来の慣習や国民感情を考慮してきめたことだといふことであるが、これは新かなづかい実施後十二年を経過したといふことを抜きにしてもそのまま放置しておくべきではないと思ふ。

・ ちひの例外は無意味

現在では同じ音と考えられて「シ、ズ」と「チ、ツ」は、原則として「シ、ズ」に統一し、「チ、ツ」は使われないことになつてゐる。しかし、これにも例外があ

る。それは「語がくついでできる鼻血(はなぢ)」「三日月(みかづき)」等の場合は、元の語が血(ち)・月(つき)で、これが濁つたのであるから「ち」「つ」と書くのである。もう一つは、縮み(ちぢみ)・続(つづ)く」といふように同じ音が続いて、あとの音が濁る場合である。

この例外は、元の語との関係がわかるという長所があるが、中には元の語が「つ・す」「ち・し」のいずれの音が判定に困難な場合もあるし、たとえ元の語が明らかであつたとしても濁音に転化した結果に区別がないとすれば、これを書き分けるということは大して意味がない。一律に「じ・す」としたほうがすっきりすると思ふ。

・ 改革の犠牲は、く、わ

旧かなづかいでは、火車(くわ)・画家(くわ)と書いたのを新かなづかいでは(かじ)・(が)かと書くことになつたが、われわれのよつたこの音を区別して発音してゐる地方の者にとっては、この区別が廃止されたことは惜しいものとも、この音と「チ・ツ」「シ・ズ」については、これをい

分けてゐる地方に限つて、書き分けてもいいことになつてゐる。しかし、ものを書く場合その地方だけに通用する書き方と、どこへでも通用する書き方とを区別して使い分けることは、実際問題として困難であり、無意味であるからそれらをいい分けてゐる地方でも逆に発音上の区別が失われて行くに違いないが、それもやむを得ないことであらうか。

町の掲示板

- 一月の行事から
- 二七日 総務文教委員会 出納臨時検査
- 二九日 第一回町議会臨時会
- 二〇日 町議会全員協議会
- 二二日 診療所運営委員会
- 二二日 民生委員協議会
- 二四日 教育委員会協議会
- 二四日 勤務評定の話し合い
- 二六日 消防団幹部会
- 二八日 農政講演会
- 二月の行事から
- 三日 集約酪農会議 上野
- 四日 災害復旧会計検査指導会
- 四日 農地の調査会議
- 四日 土地基本調査審議委員会
- 四日 耕地補助事業説明会
- 五日 財政委員会
- 六日 町議会全員協議会
- 八日 定例教育委員会
- 八日 土地調査審議委員会
- 一日 干手土地改良区理事会
- 民生委員地区代表者会
- 二三日 保育園運営委員会
- 二七日 農業委員会
- 二八日 農政講演会

貝喰橋でさる

貝喰橋(はまはし)は、主要地方道小千谷(干手)十日町線上にかけ換え工事中の貝喰橋(予算百二十万円、中島町地内)は、三月三十一日までできあがるメドがつかまりました。五日にはコンクリートの打ち上げが終つて、いま養生期間(三週間)くらい必要(中)です。月末には交通解除ができるでしょう。

交通解除は 月末から

室島橋(詳細は本紙第一号に掲載済み)もほとんどできあがつていま機軸支所と公民館を移転中です。これが終つて取り付け道路が整備されると完成になります。●ことは暖冬農家(上野)十日町間のバスも二月十四日から開通して、道行く人にさらさらの喜びを歌わせてくれました。上野(小千谷)間も二月二十七日から、仙田線は三月十日からそれぞれ開通しています。(土木系)

川西通告第四号
昭和三十四年三月五日をもつて
昭和三十四年三月五日をもつて
確定した 川西町農業委員会委員選挙人名簿に 登録された者の総数及び総数の二分の一の数は次のとおりである
昭和三十四年三月五日
川西町選挙管理委員会
委員長 丸山寛治
数 六三五〇人
総数の二分の一の数 三二七五人

〇〇さんありがとう 匿名でテレビを寄贈 仙田の三小中学校に

「金だけはいくらあつても足りない」といわれる世の中に名を秘してまで私財を投げ出し、子供たちのためにとりつばなテレビを寄贈した美しい三つの話がある。

「あまりにも暗い事件の多いまどきちよつと信じられないほど、の善行だけに、子供たちはもちろん教師や父兄からもいたく感謝：されていくが、天から降つてわいたような喜びで学校や地域の人：たちをわかせた、匿名人のねがいはいつた何であつたらうか。：親子テレビに大喜び
仙田中学と中仙田校

「毎月一万円ずつ送金するから子供たちのために有効に使つてほしい。ただしわたしの名を公表してもらつては困る」
東京に住む中仙田出身の成功者某氏（とくに名を秘す）から、中仙田小学校長（藤本秀雄氏）にあててこんな便りが届いたのはきよねの正月だつた。そしてこの話があつてから、毎月きまつて一万円ずつ送つてくれる某氏の厚意が十月も続くと、校長さんはもうじつとしていらなくなつた。

PTA会長の小林さんといつしよに、御礼言上のために上京したのである。そしてこのとき、東京の某氏との間でこんな会話がかわされたという。

「仙田でもテレビが写りますか」「東京よりもよく写ります」「じゃわたしも寄附しましょう。だが名前だけは公表しないでください。わたしは今までに、わずかでも世の中の金を集めることがで

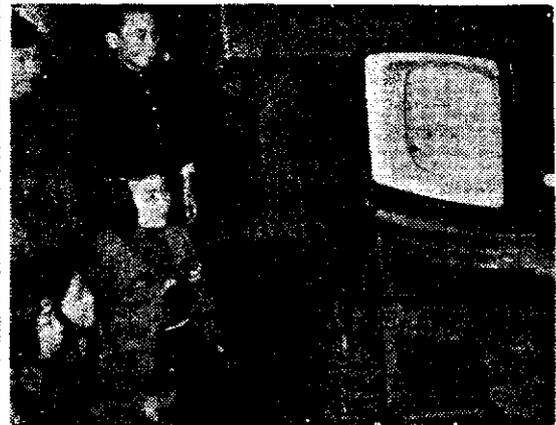
たのである。ゼネラルのこの親子テレビは、取り付け場所と教室で同時に視聴できるという便利なもので、二組あわせて二十四万円もする高価なものだ。テレビの持ち込まれたのは一月二十二日、子供たちの喜びは大きい。そして学校ではテレビの教育放送を授業の面で生かしてゆこうとほりきつてい

「きようあすにテレビが、しかも親子テレビが入るなどは思つてもいなかつたのに、この地域にこんななりつばな人がいてくれて、時代の進運に遅れないような子供にしようとしてくれることに、ただ感謝の一言があるのみだ。

この里で育つた人は大きくなつても決してふるさとを忘れず、日本の子供として大きく成長しているんだという感激がつよい。大

「さよふらさか、おちからのふぶきをつけて赤岩小学校（校長鏡村久司）によむらきゆうじ氏をたすねた人がある。その人の名はいえないうが校区内に住む某部落の〇〇さんだつた。匿名でテレビを寄贈したのですがだめでしようか」「さあ、匿名といふことになることも公表しないで受け入れることは学校の気持としてとでもできませ

「何とかならないものでしょうかどうしても名前を出さなければ寄贈できないというものでしたら、わたしも寄附をあきらめます」「まあ、待つてください。あまりにも突然のお話でわたしの一存でははからいかねます。あした校長とよく相談の上でお願いに上がります」



写真は中仙田小学校のテレビ

赤岩校のテレビ

一月十日夜のこと、おちからのふぶきをつけて赤岩小学校（校長鏡村久司）によむらきゆうじ氏をたすねた人がある。その人の名はいえないうが校区内に住む某部落の〇〇さんだつた。匿名でテレビを寄贈したのですがだめでしようか」「さあ、匿名といふことになることも公表しないで受け入れることは学校の気持としてとでもできませ

「何とかならないものでしょうかどうしても名前を出さなければ寄贈できないというものでしたら、わたしも寄附をあきらめます」「まあ、待つてください。あまりにも突然のお話でわたしの一存でははからいかねます。あした校長とよく相談の上でお願いに上がります」

「何とかならないものでしょうかどうしても名前を出さなければ寄贈できないというものでしたら、わたしも寄附をあきらめます」「まあ、待つてください。あまりにも突然のお話でわたしの一存でははからいかねます。あした校長とよく相談の上でお願いに上がります」

「何とかならないものでしょうかどうしても名前を出さなければ寄贈できないというものでしたら、わたしも寄附をあきらめます」「まあ、待つてください。あまりにも突然のお話でわたしの一存でははからいかねます。あした校長とよく相談の上でお願いに上がります」

「匿名のまま寄贈されることになつたのである。免税手続などもあつて正式に入つたのは三月中旬だが、「六年生が卒業するまでに見せたい」という学校側の希望は、今まで某業者の提供したテレビによつてかなえられた。子供たちの喜びはもちろん特別番組やその他の実況など、毎日つめかける人が後を絶たない。学校では四月から教科時間と番組の編成を考慮して有効に活用したい」といつているが「ただ有難い一言につきる。〇〇さんは個人的にもテレビのほしい人だろが、それよりも匿名で学校にという心づかいには感謝とはまた別な尊敬の念がわき上がつてつきない。学校としても手放して喜んでばかりいないで、テレビによる教育効果を生みだすように努力してゆきたい」と語る校長さんは、いくらきいても匿名者の名を明かしてはくれなかつた。そしてよろやくのことですわねあてた筆者に、〇〇さんはこう語つてくれたのである。

- 台あればみんなから喜ばれ、バスの中であれがいつていたようにどんなにか教育効果もあるだろうと思ひました。
- わたしが今こうやつて生活できるのは、部落の人たちからいつもあたたかい心をよせられているからです、今までもにぜひ分お世話になつてきました。そんなお礼の意味もあつて寄贈させてもらつたのですが、これからの子供たちがテレビを通じてたとえ少しでも社会的な視野を広め、明かるく伸びてくれればと願つています。
- わたしは完的なことを好みません。お願いです、町広報に取材するのは良いとしても、内容から取り主のわかるような記事は書かないでください」
- ああ、かくも心の美しき人たちが、喜びの子供たちや感激の村の衆に代つて、あなた方の善行を無にしないことを誓ひたい。〇〇さんありがとう」と、心から感謝せずにはいられないのである。
- ### 1町の人口動態
- よろこびも
かなしみも
- 〇うぶ声―御すこやかに―
 - 一月 男一六件 女一四件
 - 二月 男一一件 女七件
 - 〇たかき―御田満に―
 - 一月 一二組
 - 二月 一一組
 - 〇昇天―御めい福を祈る―
 - 一月 男〇件 女八件
 - 二月 男五件 女五件

もりあがる学習意欲

五十パーセントが就職へ

ことしの中学卒業生

長かつた九九年間の義務教育が終つて、この町から奥社会に飛び立つことしの中学卒業生は三百四十六人。思えば十五年前(昭和十八年四月二日から十九年四月一日まで)あの荒れ果てたいくさの庭に生まれてから敗戦、吹きすさぶ世の荒波にもまれながらもきよままで健やかに育つてきた子供たちであつたといえる。

前三年度を平均した卒業生数に比べて六パーセント、二十一人の減少という数字は「生れよふやせよ」も時われに利あらず、歴史の曲り角を歩んできた日本の激しい世相を物語ることになるうか。晴れの卒業式を、目の前に控えて、今はいつばな社会人として巣立たんとするこれら若い世代の、卒業後の動向に目を向けてみよう。

甲字卒業生の動行 3月15日現在

進路別	男	女	計	%
卒業生の総数	167	179	346	
高校(全日制)	29	23	52	15.0
高校(通信)	32	9	42	12.1
職業学校	7	13	20	5.8
在自家	63	47	110	31.8
工場	26	56	82	23.7
店員	27	17	44	12.7
家事見習		12	12	3.5
その他	15	11	26	7.5

学や就職の状況は別表のとおりだが、今までと比較したことしの傾向をほり下げてみると次のことがいえるようだ。

全日制高校への進学希望者は例年よりぐつと減少したが、これを全都市からながめた場合の希望者は逆にうねつているので、入試の競争率は一段と激しいものが予想される。また働きながら定時制高校で学ぼうという男子が目だつて多くなつたことも、ことしの特色の一つであり、看護学院などの職業学校に進んで、特殊技術を習得しようとする女子の多いこと、いろいろな事情から進学を断念した人たちの多くに、ホームルームの学習をそのまま青年学級や青年団、グループの共同学習などに求めようとする意欲のみられること、まことに喜ぶべきことであるといわなければならない。

と反対に縁故就職者の割合が高まつて、ほとんど半分に近い数字を占めていることは、卒業生のこれから歩む道が、必ずしも安いつを許さないことを示しているかのようである。

ともあれ希望にあふれてスタートする夢多き世代によりよい環境を与え、おたがいが先輩としてのあたたかい心で、迎へ励ましてやることを忘れてはならないだろう。

庁内めぐり (5)

農業委員会の巻

歴史的な農地改革を断行したかつての農地委員会が、食糧調整委員会、農業改良委員会と合体して新しく農業委員会として発足したのは昭和二十六年七月のこと、よろこびとかなしみの幾年月がな

がれた今では、町の自作農家も一千五百二十四世帯、全農家の七十二パーセントとめざましい躍進をとけてきたが、それだけに農地買売のいさこざや、維持資金を借りようとする人など、ここをたずねる人がひきもきらない。

土地には水がつきものとかで、ここに勤務する四人の職員は、いづれもひとり平均九百ミリリットルはベロリというほどのつわものそれでいて「オラの係にも女子職員がひとりほしい」といういじらしい願いを、決して口に出すようなことはしない。

係長佐藤克平氏は藤沢の産で、大がかりな国土調査を目前にいま「テコ舞い」といつたところ。歴戦十年、インパール作戦では大隊本部付だつたというから、軍隊でも町役場の係長以上にエラかつた土地のもつれからニクマレルこと

も少なくないがそれは仕事の上のこと、氏のおおらかな人となりはだれからも好かれていようだ丸山敬一氏(根深)も、マレーやビルマなど、アジアの全盛をかめくつてきたさむらいで、どんな仕事でもチキバキとかたつてゆける人だ。不啻実行型の風格から受ける感じはシンのある人間、加えてよるめきわれ閑せずといった印象がつよい。

沢口富士雄氏(下平新田)は中国全土に転戦、かつてはウースンの攻略にも参加した名射手であつた。そのかみ特高人として活躍したことを知る人は少ないだろうがこの人のもつヒューマニズムは、ころいつた経験から生まれたといつても過言ではないかも知れない和久井守氏(木落)は予科練でしほられたひとり、今はピカピカのバイクで通うが、軽快な爆音が

「官庁の私員に望む」

あるときレントゲンを撮るため自転車を支所まで行きました。ほんの少しの間だつたのに、終つて帰ろうとしたらもう自転車がなのです。それから一時間も待つて、午後の勤務時間になつたので玄關に出たらこんどはありました。自転車の後にはちやんと部落ちや名が書いてあるのに、何の断りもなく乗つていつた職員、しかも相乗りで笑いがわたくしは今、学ぼうという意欲にもあつた職員もあつた。

ています。適当な場所がないので支所や学校、センターなどを借りて週二回ぐらい勉強しています。勤務時間の終つた職員が居残つてマージャンをしたり、騒いだりして学習の妨げになつて困ります。討論や話し合いが活発になつてもあたりが賑やかですと気が散つてとてもだめなのです。わたくしたちのすることをもつとよく理解して、学習のときは遠慮したり、会場をお願いしたときは快く借したりしてください。もちろん後の整理や火気には十分注意いたします。ある夜こんなこともありました。電話がきたのですが宿直の人が酒を飲んでいて中になかつたので、それで「いいますです」と、

わたくしたちが電話の取り扱ひをしました。宿直にあつた人はもつと責任のある行動をとつて下さい。大事な町の建物はみんなの税金によつて作られたもので、そこはわたくしたちを代表する議員の集まるところでもあります。また朝夕あいさつをしても黙つて通り過ぎますが、たとえ知らない人でもこつちで頭を下けたら、礼を返すように心がけてください。何となく近づきにくいのがこつちの官庁の職員です。お願いですからもつと親近性をもつて、町民からの意見などもよく聞いてください。そうすればおたがいに気持ちのよい明かいものになると思

ふと赤トンボにつながることもあるという。無差大食で困るとケンソソしてはいるがなかなかのハリキリ型、まだ若いだけにこれから伸びてゆく人だろう。

凍死寸前を救助 水落さんら五人を表彰

東京から帰郷の途中ふぶきにあい、凍死寸前の人を救つた五人の農協職員が、人命救助で農協本部長から表彰された。

さる一月十八日夜のこと、橋盤協の水落伊作(仁田)星野浅由(野口)田中富土雄(仁田)小熊与子雄(上野)山家文夫(木落)さんら五人は、野口地内の県道上で雪の中に倒れている人を見つけ、一キロ半の難路を極力して農協に抱きこんで救助したが、このほど五人の善行が知られ、水野新潟県警本部長から人命救助の感謝状が贈られた。

なおおかつた人は元町出身の押木芳雄さん(四十四才)で、長らく東京で働いていたが、この日はふるふるさとをたずねて岩沢で下車したものの、なれない雪道でふぶきにあい、疲労と空腹からの難にあつたものとわかつた。

お知らせとお願

○本紙の第六号はB五版(いまの規格)四ページとして、四月十日に発行いたします。

○匿名で投書される方が目だつてふえてきました。住所氏名はできるだけハッキリとお書きください。

あこがれの江戸ゆき

村から逃げた若い衆

おじさんに聞いてみて下さい。おばあさんでもたぶん知っている人はいると思います。

年のころ十三才〜二十才ぐらいの若者が、秋のいちばん忙しい時に家の衆にコソコソと抜け出して仲間とかたつて三國の山越えをして江戸に逃げていった話をです。五十才以上の人たちなら、「ああ、それは江戸行きのことだろ」と、すぐ得意の話が始まるにちがいない。そして次のように話は続くことでしょう。

「十三、四才ぐらいになると、仲間とコソコソ相談して、江戸行きを計画し始める。秋に出かけて一冬を江戸で働いて、翌春の節句のころに帰ってくるのだが、一冬を江戸で送って帰ってきた時にはその若者は一ちよめえ(一人前)として取り扱われるのだ。

村の祭りにも、部落の寄り合いにも一人前として参加できる。今なら中学生の年ごろで、遊びの力も大將ぐらいいがせきの山かも知れない若者が、山賊も出るといって三國峠を越えて、はるばる江戸までの長途を夜通し歩み続けたのも、実は早く一人前になりたいと願ったからなので、庄屋のアニでも、水敷みのオジでも、敷敷と試験の世界に飛びこんでいったのだ。

秋の取り入れのいちばん忙しい時に飛び出すのだから家の衆は困るし、また、まだまだ子供だと思つて行かせたがらない

のは当然でいつも目を光らせている。若い衆は気づかれてなるものかと前々からその準備をおこたらず、夜中に家人の寝静まつたのを見計らつて逃げたのである。

後で家の衆はそれに気づくときつそく後を追つてつかまえて行くことをオイトツ(追入)といつて上州境までオイトツが行くのである。途中でもしつかまらぬものなら、部落仲間からは「タツケナシ」とからかわれるから逃げるほうは一生懸命だ。

こうして一冬を江戸で過ごして春の節句に帰ってくる時は、だれもが生が忘れられることのできない一大感激となるのである。わずかな給金で買った「トウサン羽織り」を着、絵紙などのミヤガを持ちさつそと部落の入口までくると「江戸行きが来たぞ」と人々は口々に叫んで迎えに出る。夜逃げで出かけた若者は、今はまさに將軍然として迎えられるのである。

再び家の敷居をまたぐ若者は「昔の子供ではないぞ、嫁だつてこれなんだぞ」と腫を輝かす。

近所、友人をよんで「江戸行き祝い」が開かれる。もちろん若者は「トウサン羽織り」を着て正座にすわるのである。一ちよめえになつた証の宴なのである……

語りは続くはずでしょう。出かせぎといふのは一般に、余剰労働力のある地方から不足の地方に、一定の期間だけ働きに行く経済的な活動であるはずなのに、この地方ではどうもまだ昔の江戸の行きの伝統が残つていて、まず一度は東京の空気を吸つてこなければ一人前になれないという、一種の成人への通過儀礼的な意味を含んでいるように思えます。

それはともかく、こうして老人の話を聞くことによつて、昔の生活態度や物の考えかたが浮かんできて、祖先の歩いてきた道を知る手がかりが得られるのです。

今日の生活の中に残つている前からのしきたりを調べて、昔からの生活や歴史を知ろうという学問を民俗学といひます。

俳句とは

金山柏樹

題詠といふことを申します。沢山ある季節の中から任意の題を選んで作句することです。

そうすると誰しもがその感じで句を作ると同じになるのです。しかしこの感じは誰も大抵同じもので、ですからすでにいい古されたものになりがちです。それよりもその題に対して過去に見聞し、且つ経験したことを回想して句にして見るのです。そしていろいろとあちこちから句にまともに見るのです。

しかしなかなかまともなりません。その時は更に別の角度から十七字にまともに見るのです。そうすると漸くまともなるように

なります。そこで、その時は一途にそこに心をまともでそれらの事象を思いつめ、また文字をおきかえたりして十七字にまともするので、それを句帖に書きとめます。(原文のまま)

かわにし俳壇

編集部選

小白倉 秀峰
冬おわる明かるさもてり遠き雲
寒林の中の鴉も夕焼けおり

元町 鉄平
宮庁に臨時勤めの初日記
みぞれ降る少年土工に声のむち

中仙田 竹治
立枯れの大樹あられのたゞきいる
小白倉 玉章
おちこちに織音かろし雪解町

野口 恵風
さえかえる窓に手機の手がはずむ
岩瀬 桂子
水仙や日さし明かるき事務机

岩瀬 来風
せせらぎを濁しわすかの芹洗う
小白倉 凡石
相対し語らず隣にしたいめり

新町 清子
バスゆきする二月や雪少な
暖冬にしてゲタはきの初もうで

新町 恭麿
暖冬にしてゲタはきの初もうで
新町 若草
咳しつゝおそくまで夫俊編み
高倉 国生
柿赤く取り残されてみだれおり



お茶目で近代的なセンスをもつ千枝子はことし二十一才、ナントカスタイルのよく似合う東京ツ子だ。毎年会社の休みを利用しては蔵王や志賀高原あたりまで出かけていたが、母から「ことは越後へ行つてみたら」といわれてみる

と、まだ見ぬ母のふるさとが急に大きくなってきた。

夜の上野をたつて湯沢といながら三日すつ、それに帰りが一日というプランも、清水トンネルを越えるともう慕わしさをこみあかつて、スキー場は素直に川西の里にやつてきた。町といつてもワカノクボを越えてからそのまた先の、雪深いカヤブ小屋根が珍しかったし、母の実家だという氣やすから得意になつて方言を使つて笑われたり、スキーを楽しんだりしているうちに、いつの間にか一週間が過ぎてしまつた。

そしてあした帰ろうという晩のこと、いとこのK君とこんな会話をかわしたものである。

「チコちゃんのはじめのいなかに来たんだけど、いちばん強く印象に残つたのはどんなことだったか」

「そうねえ、みなさんがとつても親切で、思つたよりも文化的で、案内が少なくて、それから」

「それから」

「そしてねえ、いなかのことばがよくわかんないけど、とつてもロマンチックですばらしいと思うの」

のかしら、ことばのやりとりがうながつていふよ。でも急にそんなこといわれたつてむだわ」「わからないなあ、じゃあしたまで宿願にしておこうか」

「うん」

あくる日は晴れた。しろがねの雪をふんで帰る千枝子さんの腕に母をばくんでくれたこの里の印象がほのほのと追つてきたことだらう。

黒い煙を上げていた川口行の機関車がボーツといつたとき、やおら窓からのり出したこの東京ツ子は見送りのK君にこういつたものである。

「あたし少し分考えたの、でもゆるゆるの宿願ねえ、やつぱり民謡調の方言だわ」

「キヨトンとするK君を手まねきして「Kさんコイテバ」という。思わず「ナシタテガンタ」と駆けよると千枝子さんすました顔で、「アイコリヤコリヤシタヨシタ見送りオキニオキニ……」

カクタンときたK君をあとに、貨客混合の列車は遠ざかつた。

編集後記

「冬来りなば春遠からし」例年より一月早いとかいわれながらも、どんなにかまぢあぐんだことはだつたでしょう。雪に閉ざされた川西の里にも四季の変わり忘れずやつてきました。谷川のうちいづる故も声立てつ、鶯さそへ春の山嵐(家隆・新古今集)